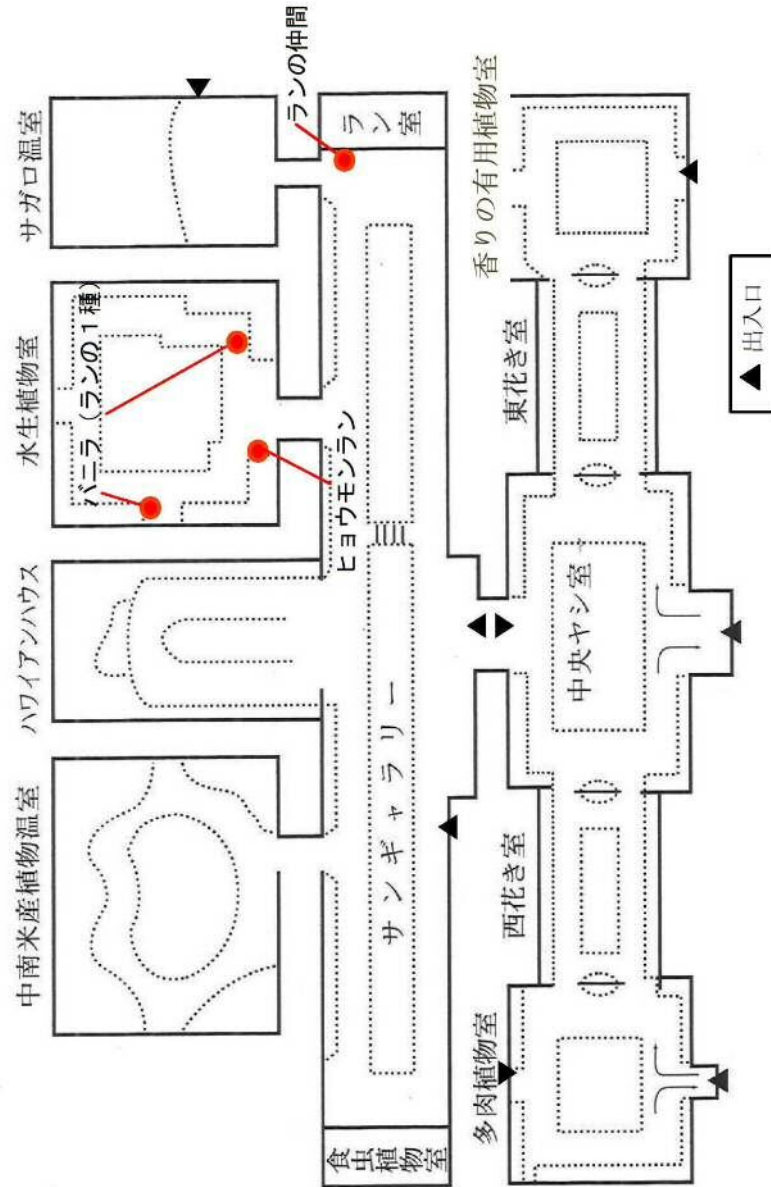


ランの花

___月___日 なまえ___



ランやバニラは、季節により花がない時もあります

贈り物として人気の高い鉢花のラン。でも、植物園のランは、ちょっと見たことのないものばかりかも。それもそのはず、植物園では、原種を中心にコレクションをしているからです。

ランは、原種から交配を重ね、より花の美しいものへと改良されてきました。ランの特徴をつかみ、その花の美しさと一緒に、味わい豊かな鑑賞をしてみましょう。

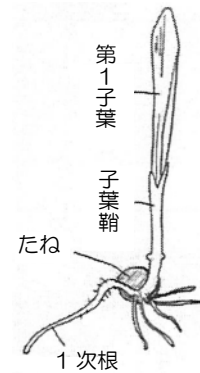
①ランの花の特徴

・ランは、ユリやチューリップ、アヤメなどと同じ単子葉植物でしょうか。それとも、双子葉植物でしょうか。

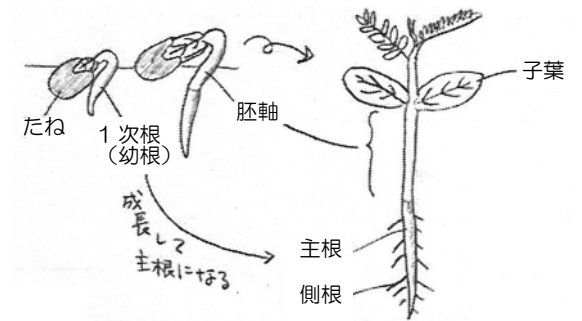
A：単子葉植物

B：双子葉植物

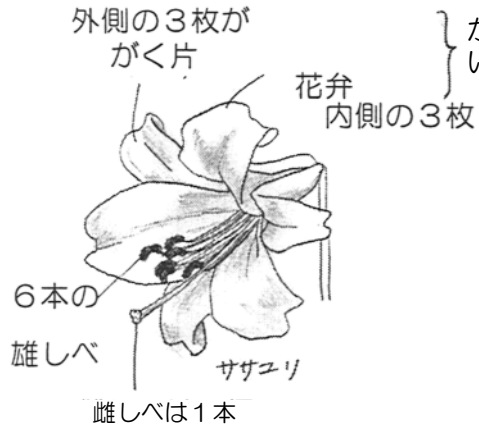
単子葉植物は、種から出る最初の葉が一枚のものです。マメやキクなどの双子葉植物は、2枚の子葉が最初に出ることから、そう呼ばれています。



単子葉植物



双子葉植物



がく片と花弁が区別できないので花被片という

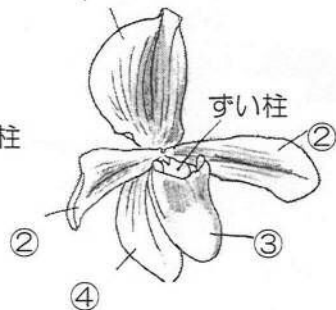
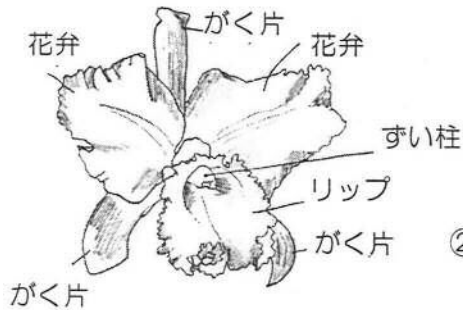
- 単子葉植物の花は、3を基本とするつくりをしています。例えば、ユリ科の花の特徴は、外側からがく片が3枚、その内側に花弁が3枚。雄しべは外側（がく片に対する位置）に3個とその内側の列（花弁に対する位置）に3個の合計6個。子房（雌しべの一部で下のほうにある。後に果実になる部分）は3室。

(花のがく片と花弁は区別できないため、花被片といいます。)

- では、同じ単子葉植物のラン科の場合は、どうでしょう。

カトレア

パフィオペディルム



上の左の絵、カトレアの花を見てみましょう。花は左右相称で、ユリ科の場合と同じように、外側から3枚のがく片、その内側に3枚の花弁がありますが、3枚の花弁のうち1枚が、形を変えて唇弁（リップ）となっています。雄しべと雌しべは合体して、一本の柱（ずい柱）になり、花粉は集まって花粉塊となっています。



さて、そのカトレアのとなりの絵、パフィオペディルムの花はどうでしょうか。同じランの仲間です。

- 花弁（リップを含む）とがく片はそれぞれ、何番でしょうか。

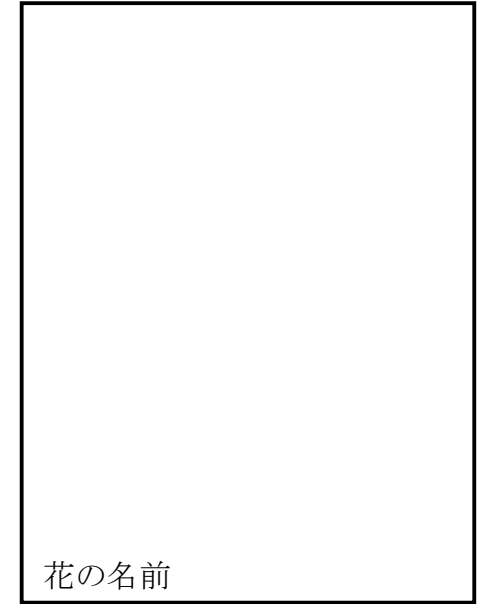
花弁…

がく片…

あれね、ちょっと数が合わないですね。実は、④は2枚のがく片が1枚になっているのです。

②ランの花の観察

温室に咲いているランの花を観察して、スケッチしてみましょう。カトレアの花の例のように、がく片と花弁（リップを含む）、ずい柱はどれか、その絵に書き込みましょう。



問題 リップはどの位置にありましたか。

A: 上

B: 下

リップの形は、様々で色も目立ちます。これは、昆虫を引き寄せて、受粉させようとしているからです。リップが下向きになっているのも、昆虫が乗りやすいような配慮からです。